

12月10日(木曜日)「パウロ(3)証し」

【新改訳 2017】

使徒 26・1-23

「アグリッパ王。私がユダヤ人に訴えられているすべてのことについて、きょう、あなたの前で弁明できることを、幸いに存じます。……」(2節)

パウロは、カイザリヤで、時の州総督フェストの尋問を受け、さらにアグリッパ王の前で証しをしました。一つ間違うと、首が飛ぶかもしれない状況でも、彼は証しができることを幸いであると言っています。

そして彼は、自分が厳格なパリサイ人の一人であったこと、イエスの道を説く者たちを迫害したこと、ダマスコへの途上で、よみがえりの主イエスに出会って変えられたこと、そして、「暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあって御国を受け継がせる」(18節)福音を宣べ伝えていることを証しました。

これがイエス・キリストの福音です。なんとすばらしい祝福で

しょう！幸いこの福音で救われた私たちも、心から感謝して証ししようではありませんか。

～祈り～

主よ。あなたのこのすばらしい福音を、機会が与えられた時には、決してためらわず、はっきり証しする信仰と勇気をもつ者としてください。

【学びのために】

アグリッパ王:ヘロデ・アグリッパ二世のこと。ヘロデ大王の曾孫であり、ヘロデ・アグリッパ1世(12・1)の子。

フェスト:ポルキオ・フェスト。AD58 年ごろに、ローマのユダヤ州総督に就任しました。